

お子さんの精神科受診をお考えのさいにお読みください



ご相談の内容によっては、まずは学校で相談いただいたり スクールカウンセラー面談にお申し込みいただくことを、お勧めする場合があります

「困っていること」の内容によっては医療受診が必要となる場合もありますが、まずは周囲の環境調整、対応の工夫が優先される場合があります。

例えば・・・

- ・“不登校”のご相談のとき、まずはお子さんを取り巻く周囲の環境を調整いただくことが望ましい場合があります。
- ・“発達障害が疑われる特性がある”ことだけで必ず受診が必要というものではありません。「うまくいかなさ」から二次的に精神的な症状が生じていたり、在籍クラス変更を検討される／福祉制度を利用されるといったときのアセスメント時に、受診が検討されます。

ご相談いただいた事柄にどのようなサポートが望ましいかは、状況を総合的に判断することが重要です。こういった判断を「見立て」と言いますが、スクールカウンセラーは学校など周囲の状況も踏まえてお子さんの状態像の見立てとサポートを検討しています。

なお、「話を聞いてもらいたい」と学校へされたご相談であったとしても、薬物治療といった医療機関受診が適切な状態像の場合もあるかもしれません。その場合は、スクールカウンセラーが学校と医療の橋渡しをしてくれています。

受診いただく際は、より適切な治療をご提案するために 学校よりご様子をお伺いすることがあります

医療機関では診断・見立て・判断のためにお話を伺います。ご本人・ご家族のお話を伺うことはもちろんのこと、学校のご様子など様々な視点から判断することが重要です。これはからだの不調で受診されたときに採血をしたりレントゲンをとったりといった検査をすることと同じことです。ご相談いただいた「困っていること」以外の事柄に困り感の背景が推察されたり、関わりや支援が必要と考えられる場合もあるかもしれません。お子さんの状態像を十分に把握しより適切な治療をご提案するために、ご本人やご家族とご相談し同意をいただいたうえで学校からの情報提供をご依頼することがあります。

医療機関において「カウンセリング」だけを行うことはございません

医療機関において行われる心理面接は治療の一環として行われるものであり、医師の診断のもと必要と判断された場合にのみ行われますことお知りおきください。

お子さんがより安心して生活を送れるよう、学校・スクールカウンセラーと協働しています。

日本海総合病院 2022年12月作成

